


日限山小学校における初動対応シート

場面	対象	地震発生	安全確保	1次避難	安全確認	二次災害	2次避難	安全確認	情報収集 被害状況把握	保護者へ連絡・ 引き渡し	防災拠点機能 <学校に留まってい られる場合>
大地震発生・大津波警報発表	授業中 校長・副校長 教職員 児童生徒	 地震発生	◎緊急放送で安全確保の指示 ◎テレビ・ラジオ等で地震・津波警報等の確認と最新情報を入手	地震が収まったら 統轄本部設置 ◎校長は、校長室(職員室)で指揮 ・緊急放送で全校避難を指示 ◎副校長は、すぐに校庭へ ・デジタル防災無線を携帯(設置校)	◎人数と安否確認 児童生徒→担任→学年主任→副校長→校長 ・周囲の被害状況の把握 ・二次避難の準備・計画 ・負傷者の確認と手当 ・児童生徒の不安緩和 ・病院等の医療機関との連携 <1次避難状況を学校教育事務所へ報告>(1次報告:様式2 FAX等)	校舎倒壊・火災発生等	◎安全な場所への避難指示 ・被害状況確認と最新情報を入手 ※事前に避難場所と経路を決めておく 2次避難場所を記載 西洗井第一公園	◎人数と安否確認 児童生徒→担任→学年主任→副校長→校長 ・周囲の被害状況の把握 ・負傷者の確認と手当 ・児童生徒の不安緩和 ・病院等の医療機関との連携	◎学校教育事務所へ連絡(第1次報告に変更がある場合) ◎区災害対策本部へ連絡 ※デジタル防災無線、FAXの活用 電子メールを活用した情報発信	◎統轄本部で情報収集 ・学校周辺の被害状況 ・公共交通機関等の運行状況 ・通信手段の開通状況 ・保護者への連絡方法の確認 保護者へ連絡 市域のいずれかで震度5強以上を観測した場合は	◎区災害対策本部との連携 ◎学校教育事務所との連携 ◎防災拠点運営の協力
			◎的確な指示 ・「頭部をまもれ」 ・「机の下にもぐれ」 ・「机の脚をもて」 ・「安心するような声かけ」	◎校庭へ避難誘導 ・名簿・引き渡しカード・ホイッスル等の携帯 ・配慮を要する子どもへの対応 ・トイレ、特別教室等に児童生徒が残っていないか確認 災害対策本部設 救出・救急医療班活動開始 消火・安全点検班活動開始	◎施設被害状況の把握 ◎危険箇所の立入禁止措置		◎予め定めた場所へ避難誘導 ◎的確な情報を与え、落ち着くように指示 救出・救急医療班活動継続 消火・安全点検班活動継続	◎役割分担に従って行動 ・学校、地域の被害状況把握(安全な場合は通学路等も...) ・ライフライン、公共交通機関の状況 ・負傷者への対応 ・危険箇所の確認と立入禁止の表示 ・不安を訴えている子どもへの対応(養護教諭中心に)	◎引き渡しの手順 ・電話、メール配信による連絡 ・緊急連絡網等 連絡とれず、または、危険で保護者の引取りが困難 留め置き ・待避場所の確保 ・食糧の確保 ・保護者への連絡	地域防災拠点マニュアルに沿って協力開始	
			◎揺れがおさまるのを待つ ・机の下にもぐり、落下物から身を守る	◎落ち着いた移動 ・防災頭巾等で頭部を保護しながら上履きそのまま移動 ◎「おかしも」の約束 おさない かけない しゃべらない もどらない	◎負傷者がいる場合は助け合う ・勝手な行動をとらない ・私語をつつむ		◎落ち着いた移動 ・防災頭巾等で頭部を保護しながら上履きそのまま移動 ・教員の指示に従い、急いで集合場所へ移動 ◎負傷者がいる場合は助け合う ・勝手な行動をとらない ・私語をつつむ	◎避難場所で静かに待つ ◎指示に従って、帰宅準備を行う	◎下校 ・保護者への引き渡し ・留め置き 留め置き ・待避場所の確保 ・食糧の確保 ・保護者への連絡	・待避場所の確保 ・食糧の確保 ・保護者への連絡	

場面	対象	地震発生	安全確保	1次避難	安全確認	予想される二次災害	2次避難	安全確認	情報収集被害状況把握	保護者へ連絡・引き渡し	防災拠点機能
授業中	校長・副校長	地震発生	<緊急放送で安全確保の指示> <テレビ・ラジオ等で地震・津波警報等の確認と最新情報入手>	統轄本部設置 校長は、校長室(職員室)で指揮 <緊急放送で全校避難を指示> 副校長は、すぐに校庭へ	<人数と安否確認> 児童生徒→担任→学年主任→副校長→校長 ①周囲の被害状況の把握 ②二次避難の準備・計画 ③負傷者の確認と手当 ④児童生徒の不安緩和 ⑤病院等の医療機関との連携	津波の影響を受けないと予想される学校	<安全な場所への避難指示> ①校舎から離れた場所 ②近隣の公園 ③地域防災拠点 ※事前に場所を決めておく	<人数と安否確認> 児童生徒→担任→学年主任→副校長→校長 ①周囲の被害状況の把握 ②負傷者の確認と手当 ③児童生徒の不安緩和 ④病院等の医療機関との連携	<学校教育事務所へ連絡> (第1次報告に変更がある場合) <区災害対策本部へ連絡> ※防災無線、FAXの活用	<統轄本部で情報収集> ①学校周辺の被害状況 ②公共交通機関等の運行状況 ③携帯電話への接続状況 ④保護者への連絡方法の確認	<区役所との連携> <防災拠点運営の支援>
	教職員		<的確な指示> ①「頭部をまもれ」 ②「机の下にもぐれ」 ③「机の脚をもて」 ④「安心するような声かけ」	<校庭へ避難誘導> ①名簿・引き渡しカード・ホイッスル等の携帯 ②配慮を要する子どもへの対応 ③トイレ、特別教室等に児童生徒が残っていないか確認	<1次避難状況を学校教育事務所へ報告>(1次報告:FAX)		<安全な場所へ避難誘導> <的確な情報を与え、落ち着くように指示> 救出・救急医療班 活動継続 消火・安全点検班 活動継続	<施設被害状況の把握> <危険箇所の立入禁止措置>	<役割分担に従って行動> ①学校、地域の被害状況把握(通学路等も...) ②ライフライン、公共交通機関の状況 ③負傷者への対応 ④危険箇所の確認と立入禁止の表示 ⑤不安を訴えている子どもへの対応(養護教諭中心に)	保護者へ連絡 ①電話による連絡 ②緊急連絡網等	地域防災拠点マニュアルに沿って支援開始
	児童生徒		<揺れがおさまるのを待つ> 机の下にもぐり、落下物から身を守る	<落ち着いて移動> 防災頭巾等で頭部を保護しながら上履きのまま移動 <おかしもの約束> おさない かけない しゃべらない もどらない	<負傷者がいる場合は助け合う> ①勝手な行動をとらない ②私語をつつむ		<落ち着いて移動> 防災頭巾等で頭部を保護しながら上履きの上のまま移動 教員の指示に従い、急いで集合場所へ移動	<負傷者がいる場合は助け合う> ①勝手な行動をとらない ②私語をつつむ	<避難場所で静かに待つ> <指示に従って、帰宅準備を行う>	<下校> ①保護者への引き渡し ②留め置き	・待避場所の確保 ・食糧の確保 ・保護者への連絡継続
登下校中	校長・副校長	地震発生	災害対策本部設置	統轄本部設置 校長は、校長室(職員室)で指揮	<安否確認> <1次避難状況を学校教育事務所へ報告>(1次報告:FAX)	校舎倒壊 火災発生	校舎倒壊・火災発生 <校舎等からできるだけ離れた場所への避難指示> ①校舎から離れた場所 ②近隣の公園 ③地域防災拠点	<人数と安否確認> 児童生徒→担任→学年主任→副校長→校長 ①周囲の被害状況の把握 ②負傷者の確認と手当 ③児童生徒の不安緩和 ④病院等の医療機関との連携	<学校教育事務所へ連絡> (第1次報告に変更がある場合) <区災害対策本部へ連絡> ※防災無線、FAXの活用	<統轄本部で情報収集> ①学校周辺の被害状況 ②公共交通機関等の運行状況 ③携帯電話への接続状況 ④保護者への連絡方法の確認	<区役所との連携> <学校教育事務所との連携> <防災拠点運営の支援>
	教職員		<揺れがおさまるのを待つ>	<児童生徒の所在確認> ①校内を確認 ②通学路(公園等)を確認 ③校内施設被害状況の把握 ④危険箇所の立ち入り禁止措置	<情報収集> ①学校に登校児童生徒の確認 ②帰宅した児童生徒の安否確認 ③校内施設被害状況の把握 ④危険箇所の立ち入り禁止措置		<的確な情報を与え、落ち着くように指示> 救出・救急医療班 活動継続 消火・安全点検班 活動継続	<役割分担に従って行動> ①学校、地域の被害状況把握(通学路等も...) ②ライフライン、公共交通機関の状況 ③負傷者への対応 ④危険箇所の確認と立入禁止の表示 ⑤不安を訴えている子どもへの対応(養護教諭中心に)	保護者へ連絡 ①電話による連絡 ②緊急連絡網等	地域防災拠点マニュアルに沿って支援開始	
	児童生徒		<揺れがおさまるのを待つ> ①高層ビル等からの落下部に注意 ②ブロック塀、自販機から離れ、頭部を保護	<安全な場所へ避難> 揺れが収まる → 学校 校庭等、安全な場所に避難 自宅 帰宅した場合は、学校へ連絡	<学校> ①教員の指示に従い、落ち着いて行動する ②防災頭巾等で頭部を保護しながら上履きの上のまま移動		<自宅>(保護者とともに) ①出来るだけ高い場所へ避難(津波に備えて) ②落ち着いたら、市の指定した広域避難場所へ	<避難場所で静かに待つ> <指示に従って、帰宅準備を行う>	<下校> ①保護者への引き渡し ②集団下校 ③留め置き	・待避場所の確保 ・食糧の確保 ・保護者への連絡継続 ・不安を抱えた児童	
校外学習等	校長・副校長	地震発生	<安全確保を最優先> ①地形や潜在場所の状況を判断し、安全確保を指示 ②公共交通機関を使用している場合は乗務員の指示に従う	<揺れがおさまるのを待ち、安全な場所への移動を指示>	<学校へ連絡し、状況を報告、指示を受ける> <地元公共機関等へ連絡し、救援要請を行う>	津波の影響を受けると予想される地域にいた場合 大津波警報	<地元公共機関等の指示を受け、近隣ビルの最上階又は近くの丘陵地への避難誘導> <津波情報の確認と最新情報入手> <学校へ詳細を連絡し、指示を受ける>	<人数と安否確認> ①周囲の被害状況の把握 ②負傷者の確認と手当 ③児童生徒の不安緩和 ④地元病院等の医療機関との連携	<学校における今後の対応策の検討> ①現地からの報告を受け、学校教育事務所に報告 ②保護者へ連絡 ・現状の説明(安否についても) ・帰宅方法等について ③現地から帰校させる交通手段等の手配 ④地元公共機関への応援要請 ⑤現地への教職員派遣	※県外(特に自然教室、修学旅行等)で校外活動中に、横浜市内で大規模地震に伴う被害がでた場合は、学校または学校教育事務所に連絡し、具体的な指示を受けてから活動する。(特に横浜に向かって移動中の場合)	
	教職員		<揺れがおさまるのを待つ> 安全な場所へ退避させる	<児童生徒を安全な場所へ移動させる> <公共交通機関を使用している場合は、乗務員の避難指示に従う>	①区役所 ②近隣の小中学校 ③警察等		<教員や地元の方々の指示に従う> ①落ち着いて行動する ②勝手な行動をとらない ③教師とはぐれた時は、動かず、その場で待つ				
	児童生徒		<揺れがおさまるのを待つ> ①高層ビル等からの落下部に注意 ②ブロック塀、自販機から離れ、頭部を保護	<安全な場所へ避難> ①教員や公共交通機関の乗務員の避難指示に従う ②教師とはぐれた時は、動かず、その場で待つ	<負傷者がいる場合は助け合う> ①勝手な行動をとらない ②私語をつつむ						